

「スマートシティたかまつ推進プラン（仮称）素案」のパブリックコメント実施結果

本市では、平成31年1月25日から2月24日までの期間、「スマートシティたかまつ推進プラン（仮称）素案」についてのパブリックコメントを実施しました。いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を以下のとおりまとめましたので、公表します。

1 意見総数 25件（13人）

2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え

※提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化若しくは文言等の調整をしています。

※スマートシティたかまつ推進プラン（仮称）素案に関する御意見以外につきましては、担当課等にお伝えしております。

番号	御意見（要旨）	市の考え方
計画全体について		
1	市が実施している ICT やデータを活用した取組について、市民にはあまり知られておらず、プランを見て初めて知った取組もある。これらの取組を広げていくため、周知・啓発に工夫が必要ではないか。	スマートシティの実現に向けた取組は、市民の方々に理解していただき、利便性を感じていただくことで、広まっていくものと認識しております。
2	市政全般の各分野に係わる ICT・データ活用の施策が盛り込まれており、実現を期待したい。本計画が、真に市民各層の理解を得て定着させるような取組が望まれる。	今後も、本市の取組等について、あらゆる機会をとらえて、より市民の方が分かりやすい普及・啓発活動を推進してまいりたいと存じます。

3	<p>すべての人が ICT・IoT 社会の恩恵を受けられるようにする必要がある。PC やスマホなどの機器を多くの人々が使用しているが、使い方が分からないために、自身が被害にあったり、逆に他人に害を及ぼしていることがある。誤った使用をすることがないよう、互いに教え合い、補完し合うことができるようにすることが必要である。</p>	<p>本格的なIoT・AI時代の到来に向け、高齢者等、誰もが取り残されることなく、ICT の恩恵を享受できる情報バリアフリー環境の実現に向けた取組を推進してまいりたいと存じます。</p>
4	<p>関連施策の中で、個人情報に関係する部分については十分な情報保護対応が求められるのではないか。</p>	<p>事業実施に当たっては、高松市個人情報保護条例などの関連法規に準拠し、また、関連ガイドラインを参考にして、個人情報を適切に取り扱ってまいりたいと存じます。</p>
<p>ICT 教育環境の整備について</p>		
5	<p>板書による授業の方が、学生の評判が良いことがある。ICT を導入すると本当に理解度が上がるのか、検証した方が良い。</p>	<p>小・中学校において、授業における ICT の活用について、定期的に生徒・児童にアンケートを実施し、効果を確認しながら、情報活用能力の育成を推進してまいりたいと存じます。</p>
<p>電子母子健康手帳の利用促進について</p>		
6	<p>このような取組を行っているとは知らなかったが、素晴らしい取組だと思う。予防接種の記録は就職や海外渡航時に必要になることもあるため、将来にわたって使えると良い。</p>	<p>電子母子健康手帳の利便性を高め、更なる利用促進につながるよう、機能拡充を検討してまいりたいと存じます。</p>
<p>人流計測を通じた中心市街地活性化について</p>		
7	<p>歩行者等の通行量データと天候やイベントなどの関連情報を結合し、対応が取れると良い。</p>	<p>歩行者等の通行量データと天候やイベントなどの関連情報などを複合的に収集・分析し、商店街の活性化策に活用することについても検討してまいりたいと存じます。</p>

データを活用した公共交通の利用促進について

8	公共交通（JR・バス・電車・フェリー）を一元化したサービスがあれば良い。	公共交通を一元化したサービスの構築につきましては、デジタルインフラの整備・普及のほか、鉄道やバスの運行情報、タクシーの位置情報、道路の交通情報などの移動・交通に関する大規模なデータをオープン化し、整備・連携することが必要となると認識しております。 従いまして、少しずつデータの収集や活用を検討し、誰もが快適に移動しやすい環境の整備を推進してまいりたいと存じます。
---	--------------------------------------	--

市民等による情報投稿の仕組みの導入について

9	災害時のツイッター情報を整理して表示するものなど、住民からの情報提供を有効利用するための AI を活用したシステムを開発すると良い。	災害発生時の道路や建物などの破損情報については、インフラ事業者から、本市へ情報提供ができる仕組みの導入を、検討しているところでございます。 市民からの情報収集につきましては、災害時に限らず、より幅広い情報を提供していただける一方で、情報提供に適した分野の明確化や、運用ルールの策定など、課題等もございませうことから、今後、検討してまいりたいと存じます。
---	--	---

ICT を活用した観光振興について		
10	<p>観光振興の取組について、楽しんでもらえることは重要だと思う。ただ「便利」、「役に立つ」だけではなく、「楽しんでもらう」仕組みがあれば、記憶に残りやすいのではないか。</p>	<p>観光分野において、「楽しんでもらう」仕組みづくりは重要だと認識しております。</p> <p>引き続き、スマートシティたかまつ推進協議会と連携し、ICT を活用した「楽しい」と感じてもらえる観光振興の取組を検討してまいりたいと存じます。</p>
ICT を活用した効果的な情報発信について		
11	<p>自治会の回覧板を電子化して欲しい。(メールやメッセージなど)</p>	<p>自治会につきましては、任意団体ですので、各自治会の判断になろうかと存じますが、本市といたしましても、地域コミュニティの活性化につながりますことから、電子化についての情報提供など、積極的に支援してまいりたいと存じます。</p>
12	<p>「子育て支援 高松市」で検索すると様々なサイトが出てくる状態である。子育て支援のためのポータルサイトを作成し、役所などへの手続き関係、保育関係、医療関係、NPO 関係、支援イベント関係など整理され、様々な検索が簡単にできるサイトがあるとよい。</p>	<p>これまで、市ホームページのリニューアルを行い、情報発信、広報の充実を図ってまいりましたが、今後も、子育て分野に限らず、必要とする人が必要な情報に容易にたどり着ける仕組みの構築を検討してまいりたいと存じます。</p>

AI・RPAの導入について		
13	ICTやAIによって、新たに創造する職業、働き方、産業（7次産業化）の革命が必要である。例えば、ICTにより市街地に居住していなくても仕事として成立するのなら、その余剰労働力で1次産業の手伝いをするような仕組みがあっても良いのではないか。特に林業の再生が市南部の再生と直結している。	<p>人口減少、少子・超高齢社会が到来する中、今後、複雑化・高度化する地域課題を解決し、持続可能なまちづくりを推進するためには、AI等、先進的なICTの活用による、行政運営の改革を積極的に推進し、既存の行政サービスを維持しながら、コスト負担の最大限の効率化を図ることが必要であると存じます。</p> <p>基本的な人的能力も維持しつつ、効率化の結果として生じた人的・財政的資源を有効活用し、新たな施策に取り組んでまいりたいと存じます。</p>
14	企業の窓口受付業務や職員採用は、実際にはAI化が進んでいる。建設業の入札についてもAI化を推進して省力化すべきである。	
15	AI等の活用により、単純作業の時間を企画立案業務等に充てられるとの記載があるが、基本的な作業対応が可能な人的能力の維持も危機管理として考えておくべきではないか。	
情報セキュリティ対策の推進について		
16	大規模災害などの発生等非常事態におけるシステムダウンなどに対する対策（バックアップ等対応）はどうか。	本市では、CVCFなど、ハード的な対応のほか、データのバックアップなど、ソフト面での対応もしておりまして、仮に大規模災害が発生したとしても、早期の復旧ができる体制を整備しております。

産学官連携を支える仕組みの整備について

17	<p>学術的に支援する仕組みとして、県内の高等教育機関のコンソーシアムがあるが、そこでの連携がカギである。また、高松市のモデルが周辺の市町にもすぐに導入できるように、情報共有について支援すべきである。</p>	<p>県内の高等教育機関のコンソーシアムも含め、多様な主体との連携により、それぞれが持つ新しい技術や知見等を活用・連携させることは、スマートシティの実現のために重要だと認識しておりますので、積極的に連携してまいりたいと存じます。</p> <p>また、本市では、本市を含む周辺3市5町と「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」を形成し、各種、連携事業に取り組んでおりますが、来年度から、スマートシティの実現に向けた取組についても連携予定であり、周辺市町と更なる情報共有、連携強化を図ってまいりたいと存じます。</p>
----	--	---

オープンデータの推進について

18	<p>オープンデータの活用について、e-とびあで開催していた「まちのデータ研究室」という講座のように、市民や高校生も参加し、どのようなオープンデータがあるかを知って、それらを何に使えるか考えるイベントは、自分の住む地域の情報を知ることにもつながり、魅力的である。このようなイベントが広がってほしいと思う。</p>	<p>ICT・データの活用につながる講座やイベント等の開催は、非常に重要だと認識しております。</p> <p>引き続き、大学や関係団体等と連携しながら、ICT・データの活用に関する知識や能力を持つ人材の育成に取り組んでまいりたいと存じます。</p>
19	<p>様々な方にデータを提供してもらおう取組として、データを登録するという作業を実際に体験してもらい、自分が提供したデータがアプリ上で使われていることが見えると、自分もデータを登録してみようと</p>	

	<p>いう人が増えるのではないか。役に立ってみたいと思う人も増えると思う。認知度の向上にもつながると思う。</p>	
20	<p>防災マップ、観光マップ、車いす利用者用マップなど、地理情報システムを活用して様々なマップを簡単に作成できるようにしてはどうか。</p>	<p>現在、市民等が、より利用しやすいオープンデータサイトを構築中でございますが、地図上に防災施設や観光施設等を落とし込み、一元的に見える化する機能も付加する予定にしております。</p>
21	<p>オープンデータについて、すでに公開されているデータだけではなく、大学等でアンケートを取るなど、他にオープンデータにしてもらいたいデータを募集してはどうか。</p>	<p>今後、利用者からのオープンデータに関する要望を受け付ける仕組みの構築を検討するなど、利用者ニーズを的確に反映しながら、保有するデータのオープンデータ化を更に推進してまいりたいと存じます。</p>
22	<p>オープンデータの充実に関して、官のオープンデータの活用に加えて、民間のデータを組み合わせることが必要である。民間のデータを収集する仕組みが必要である。</p>	<p>多くの官民データを収集し、複合的に分析することで、様々な地域課題の解決や新しいサービスの創出につながるものと認識しております。</p> <p>データの収集には、様々な課題がございますが、中でも、民のデータの提供は、大きな課題でございます。</p> <p>産学民官の多様な主体で構成する「スマートシテ</p>

23	<p>データを提供するインセンティブについて、どのように定義するかは難しい。民間と行政の間に入って、産学官が一つのチームになってどのようにオープンイノベーションにつなげるか。「いまは競争するフェーズ（領域）ではなく、データを積極的に公開していくフェーズである」というマインドを企業にもってもらわないとなかなか企業からデータは出てこないと思う。10年後、20年後の高松を見据えた種まきが必要である。</p>	<p>いたかまつ推進協議会」の活動を通じ、会員企業等を中心に、民のデータの共有を推進してまいりたいと存じます。</p>
24	<p>個人情報保護の課題、企業が資産と考える情報の提供の課題、防犯の課題など、データ収集に係る課題を解決し、多くのデータを収集してもらいたい。</p>	
<p>IoT 共通プラットフォームについて</p>		
25	<p>IoT 共通プラットフォーム「FIWARE」のデータに関して、情報量が多い部分と少ない部分がある。必要な情報と不要な情報が混在しており、「こういう属性の人達には、こういうデータが必要である。」と分かれば、アプリを開発する人も使いやすいのではないか。その人の属性を分析し、情報を選択できる仕組みができれば使いやすくなっていくのではないか。</p> <p>市からも技術的な面についての支援があると良い。事例集や問い合わせ窓口、様々な人が集まれる場があれば良い。</p>	<p>IoT 共通プラットフォーム「FIWARE」は、昨年2月に日本で初めて高松市が実装し、その後、他の地域においても実装されてきております。</p> <p>まだまだユーザーインターフェイスに関し、改善していく点があるため、要望等を伺いながら改善を検討してまいりたいと存じます。</p> <p>また、産学民官の多様な主体の連携により、ICT・データを活用して地域課題の解決につなげるアイデアソンやハッカソンなどのイベントを開催しておりますが、今後は更に開催回数を増やしてまいり</p>

		<p>たいと存じます。</p> <p>さらに、今年度構築している FIWARE の実証環境については、その活用における技術面での支援を検討してまいりたいと存じます。</p>
--	--	--